

京都スタジアム(仮称)建設 に係る市民説明会

平成29年7月10日
京都府

京都スタジアム(仮称)



Kyoto Stadium



これまでの経過

➤ 環境保全専門家会議設置

H25. 5月～H29. 6月の約4年間に

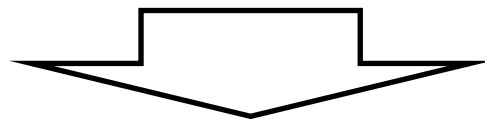
- ・ 98回のワーキング会議
 - ・ 34回の環境保全専門家会議
- を開催

➤ 主な取り組み

- ・ アユモドキ生息実態調査、餌・水路環境調査等
- ・ 繁殖等の実証実験
- ・ 調査実験で得られた新知見に基づいたスタジアム等整備と自然保護の両立に係る基本方針策定

第34回環境保全専門家会議概要(H29.5.17)

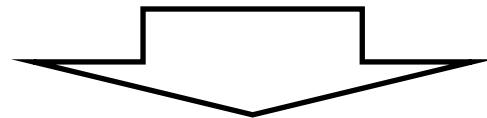
- 建設地を駅北土地区画整理事業地に移転
- 環境保全対策に係る工法や構造
 - ・ 無排土鋼管杭埋設工法(セメントミルク不使用)
 - ・ 遮音性を高めた建物構造や勾配屋根の採用など
- 解析モデルの細分化や季節変動を考慮した詳細な地下水解析を実施
- 予防保全措置の実施や予期せぬ観測結果の場合の工事一時中断を含むモニタリング調査の実施
- 産卵時期 1 週間の工事中断や試合未開催



工事に着手しスタジアム整備を進めても、生息への影響は回避され、アユモドキ個体群への影響は軽微

34回環境保全専門家会議の概要

- 加えて、広域的なアユモドキ生息環境の改善に係る以下の項目を検討実施することにより、
 - ・ 都市公園エリアに係る共生ゾーンのデザイン
 - ・ 同エリアにおける水田耕作の維持継続
 - ・ ラバーダムの修繕
 - ・ 公園エリア西側農地の保全維持
 - ・ 越冬地の保全維持・改善、新たな繁殖場所の創出
 - ・ 地元や保護団体による保全活動の実施
 - ・ アユモドキ生息地等保全地区の指定に向けた取組



将来にわたるアユモドキの保全環境を
早期に確立させることができる

➤ 委員会結果

- ・ 環境の評価は、影響は軽微であることが確認でき、アユモドキ保全の議論が十分されている
- ・ 工事の進捗やアユモドキ保全についての情報開示を行い、PDCAサイクルの手法で事業や保全活動を進めて欲しい
- ・ 駐車場や交通渋滞などの対策は、現時点で概略の検討は出来ている。JRとの調整等具体的な対策の検討を進めて欲しい
- ・ 治水対策はスタジアム建設を超えた大きな課題、府の整備だけでなく、国の整備や市の内水対策とも密接に関わることで、河川整備計画の立案には丁寧な説明が必要



工事着手することについて了解

アユモドキ等の保全対策①

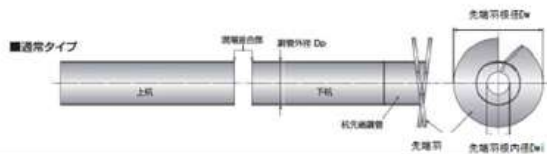
▶ スタジアムで取り組む環境保全対策の内容

- ① 基礎杭は、セメントミルクを用いない低騒音・低振動の無排土鋼管杭埋設工法を採用
- ② 遮音性の高めるため、建物は屋根・外壁で外部空間との間仕切りを設置
- ③ スタジアムの照明器具は、光源が建物外部に出ないように屋根裏面に設置
- ④ 建物による日陰が広範に生じないように勾配屋根を採用
- ⑤ 地下水保全のため、現場でのコンクリート打設量を少なくするプレキャスト化
- ⑥ 工事排水は、水路及び仮沈殿池で集水・処理し排水基準を満足してから雑水川に排水

無排土鋼管杭埋設工法



■ 杭の構造

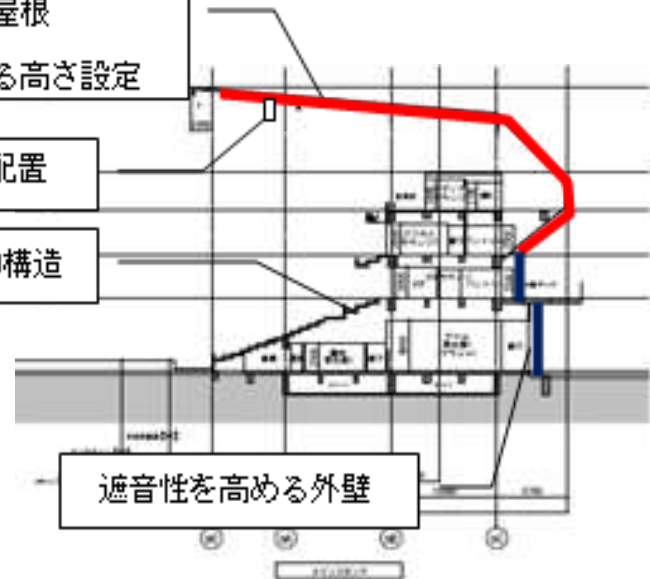


スタジアム断面イメージ

- ・ 遮音性を高める屋根
- ・ 日照を確保できる高さ設定

屋根内側に照明配置

振動を抑える建物構造

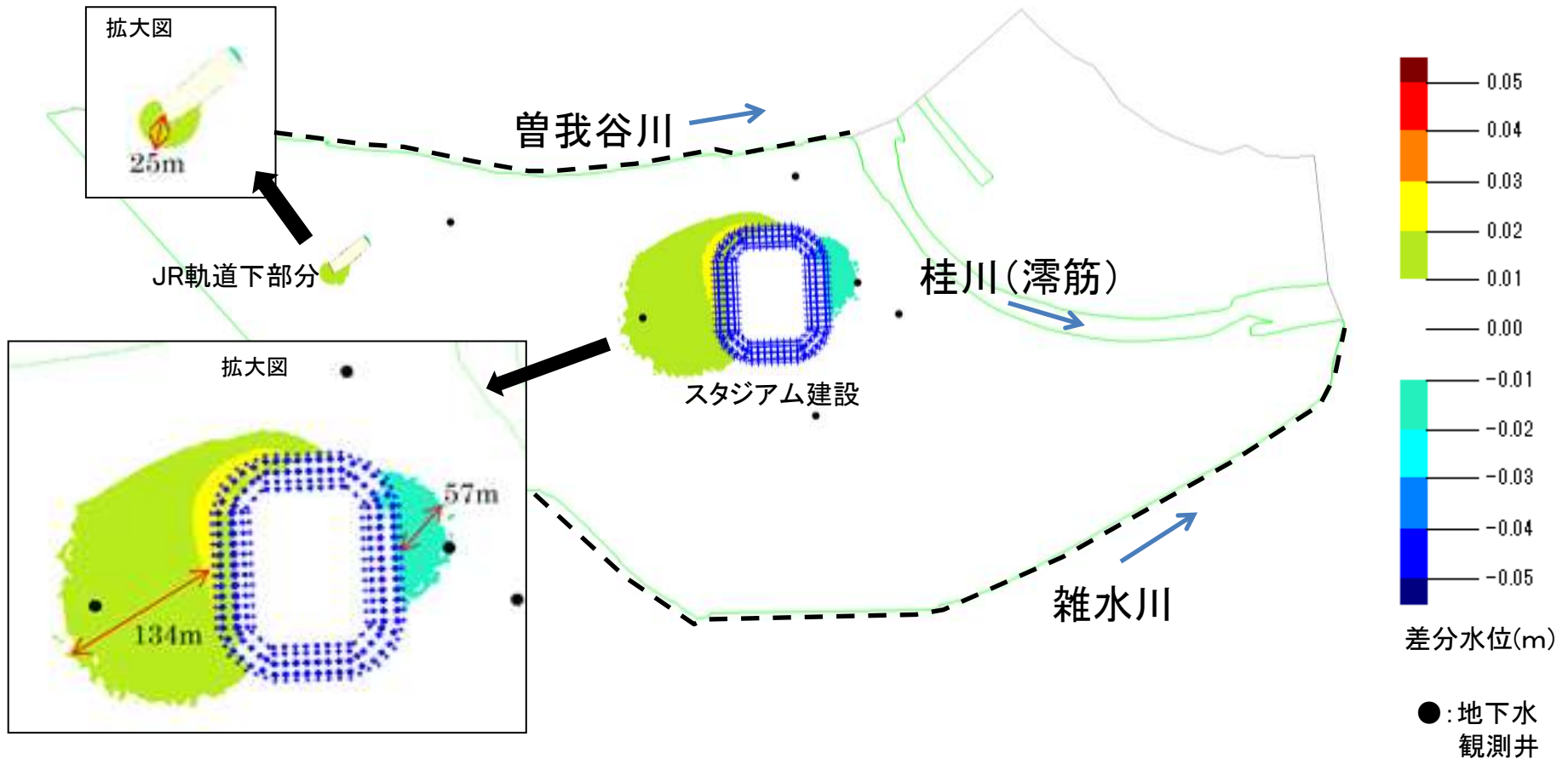


遮音性を高める外壁

アユモドキ等の保全対策②

○スタジアム建設等が地下水位に与える影響予測

＜スタジアム付近地下水動水勾配最大時(平成28年7月24日)＞



- 水位差が生じる範囲はJR軌道下部分とスタジアム周辺に限定され、アユモドキが生息する曾我谷川や桂川には至らない
- 水位差は±3cmと日常的に起きている程度のもので、地下水位に対する影響は軽微

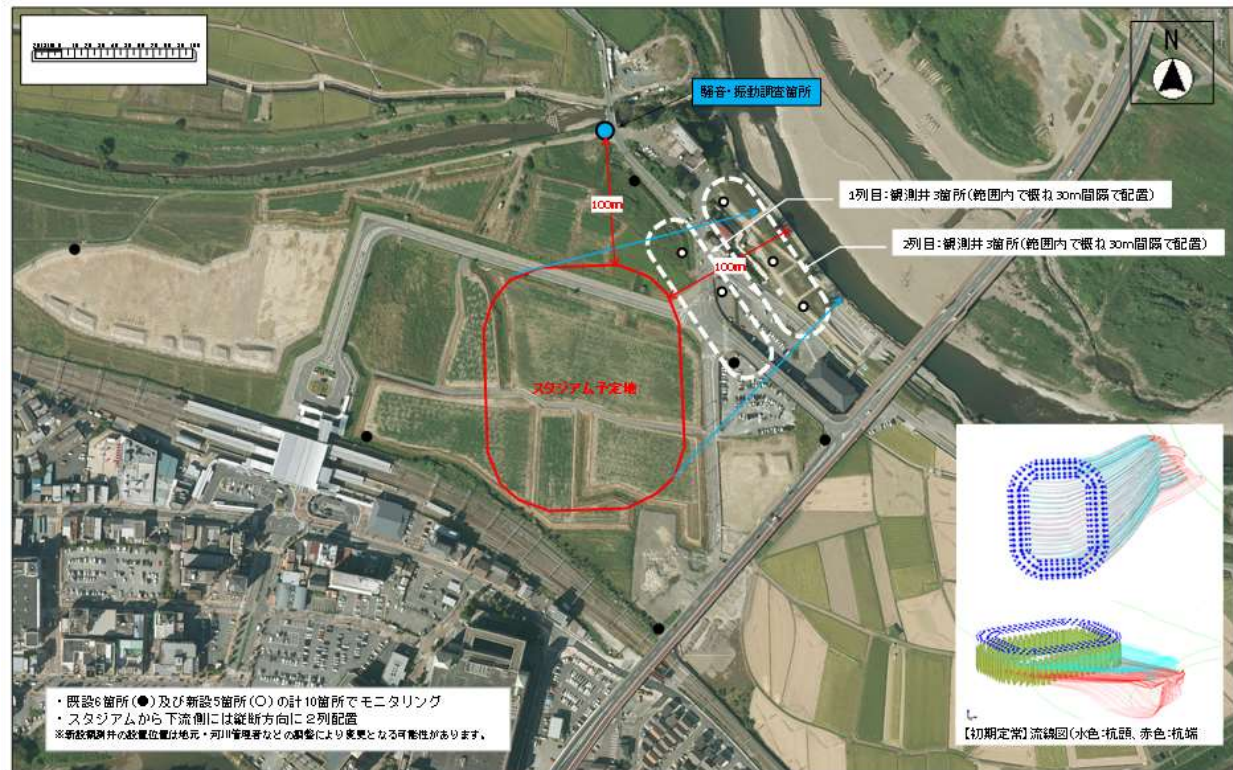
アユモドキ等の保全対策③

○モニタリング計画

工事に先立ち、予防保全措置として、アユモドキの待避場等の設置

- ① 地下水の水位・水質、湧水量の常時監視。河川流量や地下水流向・流速の随時監視
- ② 新たな観測井を設置し、地下水が桂川に到達するまでに段階的に地下水水質を確認
- ③ アユモドキを水槽で飼育し常時観察による実証(騒音・振動・光等への行動)確認
- ④ 越冬環境の維持を示す指標となる9月及び翌年5月のアユモドキ個体数等の確認

モニタリングにおいて、通常と異なる大きな変化が見られた場合には、工事等を一時中断し、環境保全専門家会議の指導・助言を踏まえ対策を検討・実施

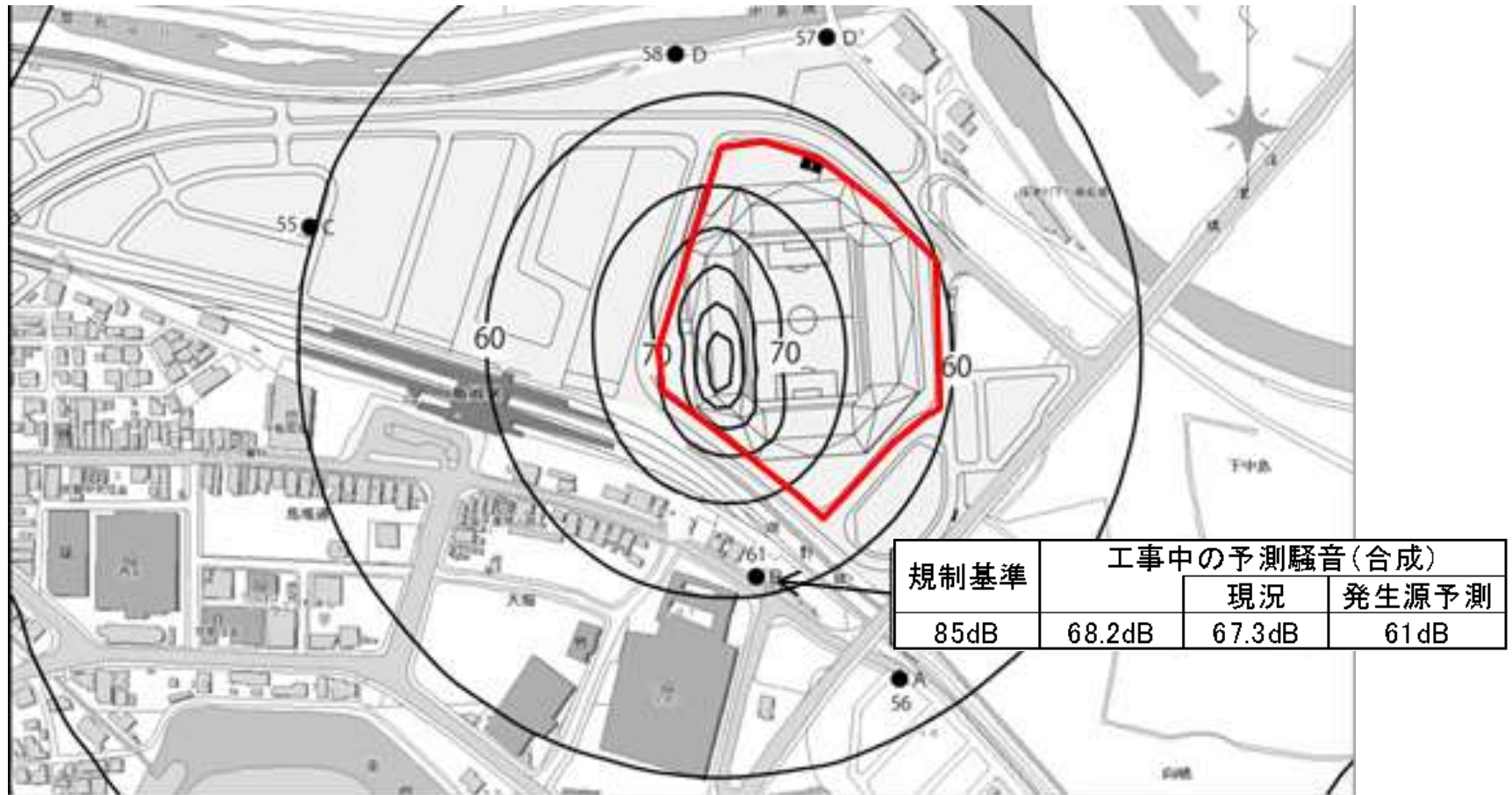


地下水モニタリング調査箇所図

➤ スタジアムで取り組む生活環境対策の内容

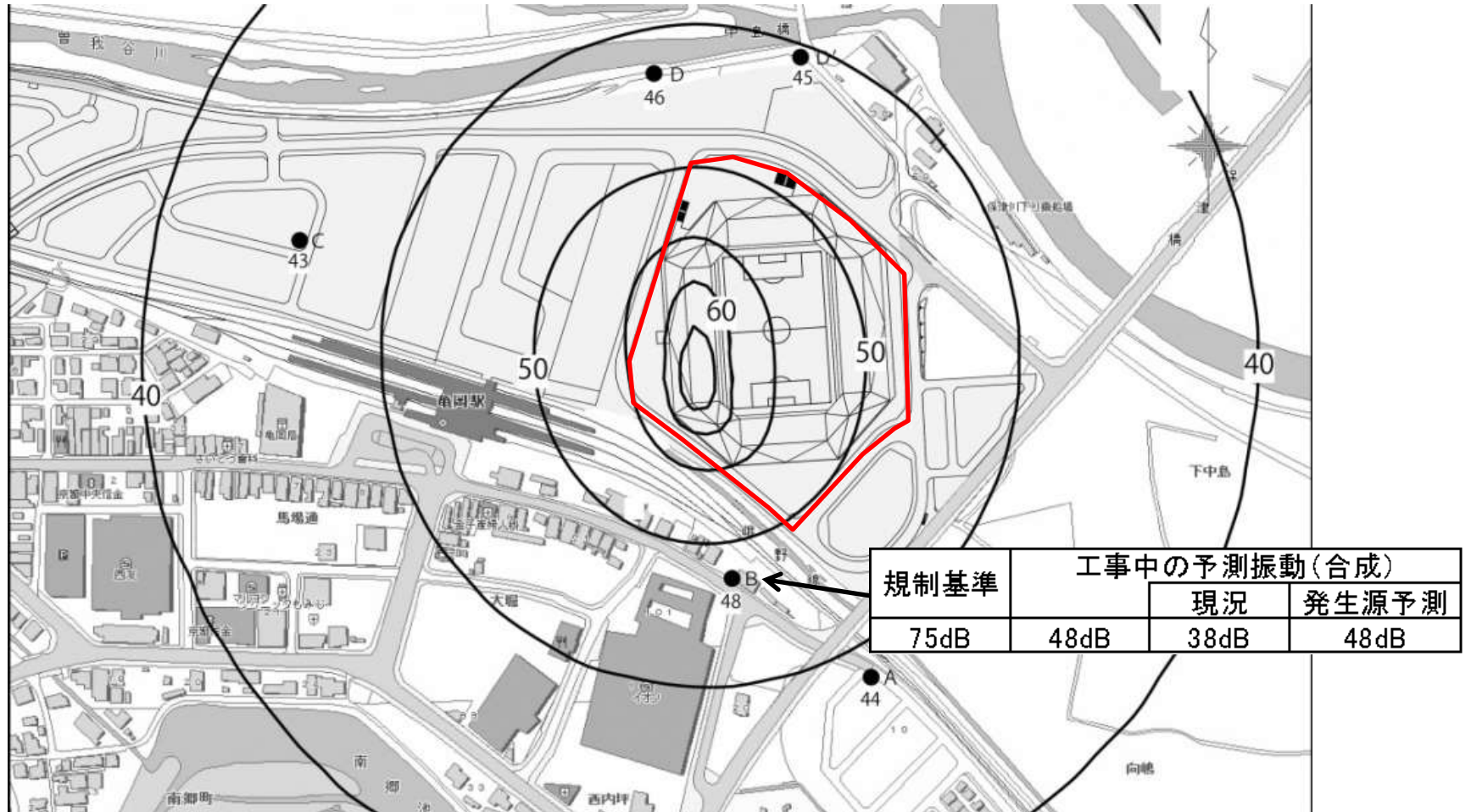
- ① 遮音性の高めるため、建物は屋根・外壁で外部空間との間仕切りを設置
- ② スタジアムの照明器具は、光源が建物外部に出ないように屋根裏面に設置
- ③ 建物による日陰が広範に生じないように勾配屋根を採用
- ④ 基礎杭は、低騒音・低振動の無排土鋼管杭埋設工法を採用
- ⑤ 工事中及び供用後の警備等の体制として、周辺住宅地における不法駐車対策や通行の安全を図るため、交通整理員等を必要に応じて配置します。

○工事中の騒音予測結果



※規制基準：特定建設作業に伴って発生する騒音の規制基準

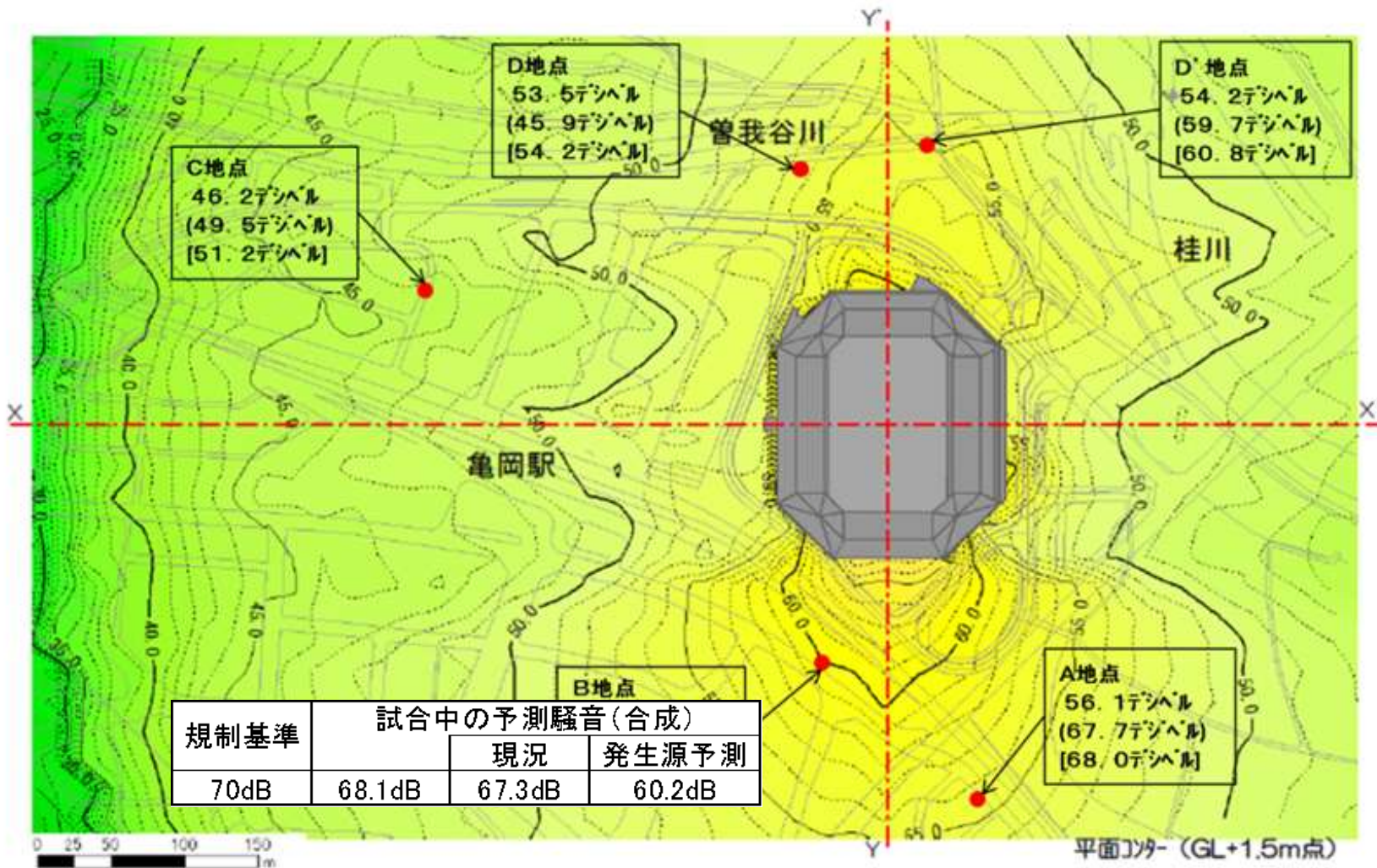
○工事中の振動予測結果



※規制基準：特定建設作業に伴って発生する振動の規制基準

生活環境への影響③

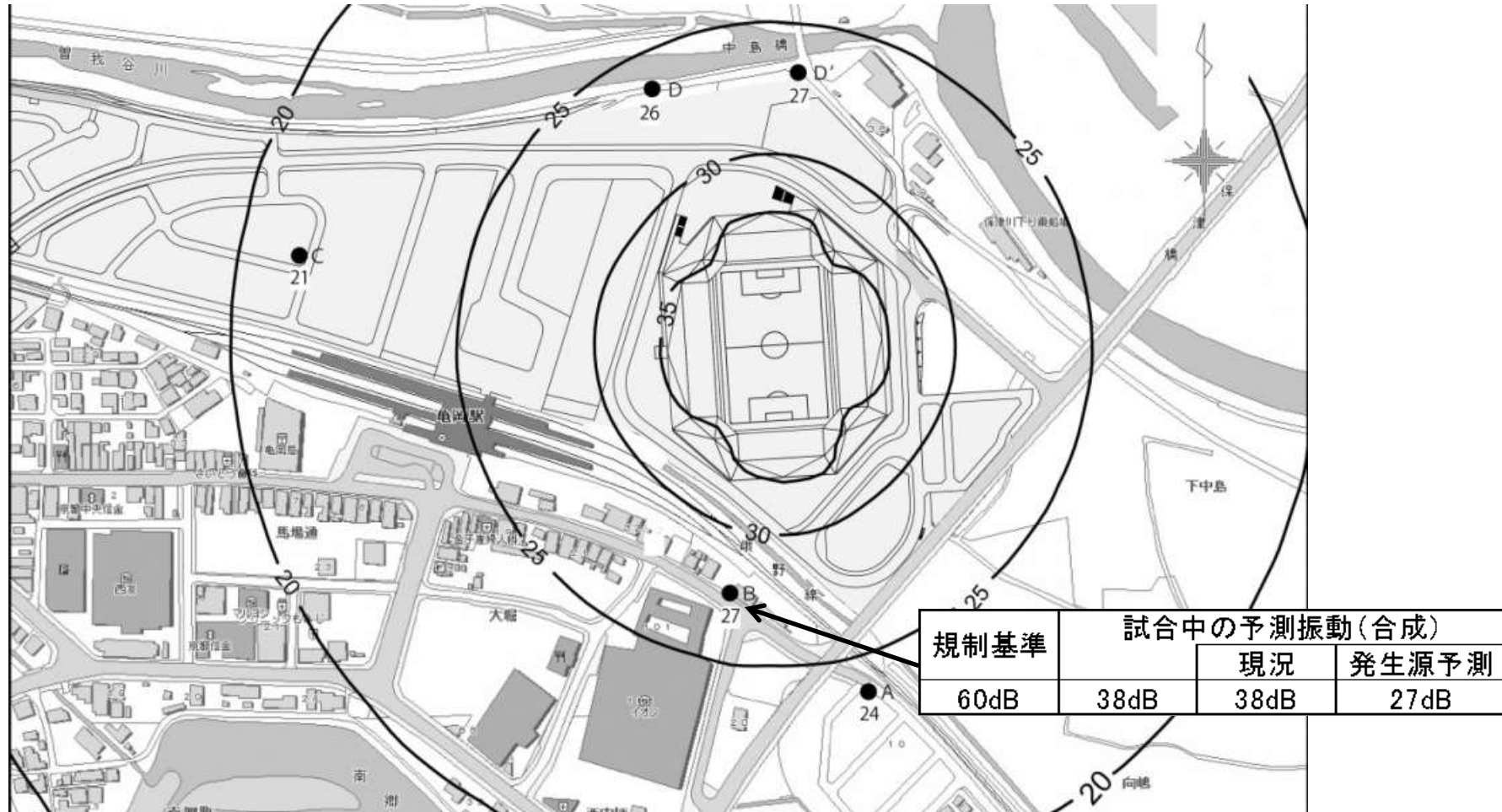
○試合中の歓声騒音予測結果



※規制基準：騒音に関する環境基準 道路に面する地域（幹線交通を担う道路に近接する空間）を準用

生活環境への影響④

○試合中の応援振動予測



※規制基準：特定工場等において発生する振動の規制基準を準用

生活環境への影響⑤

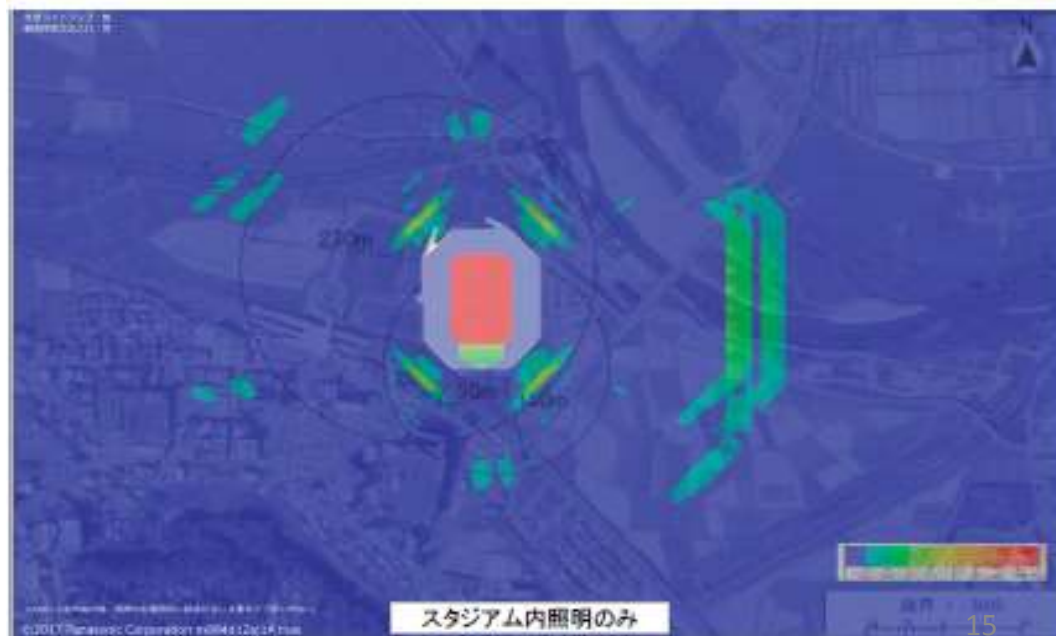
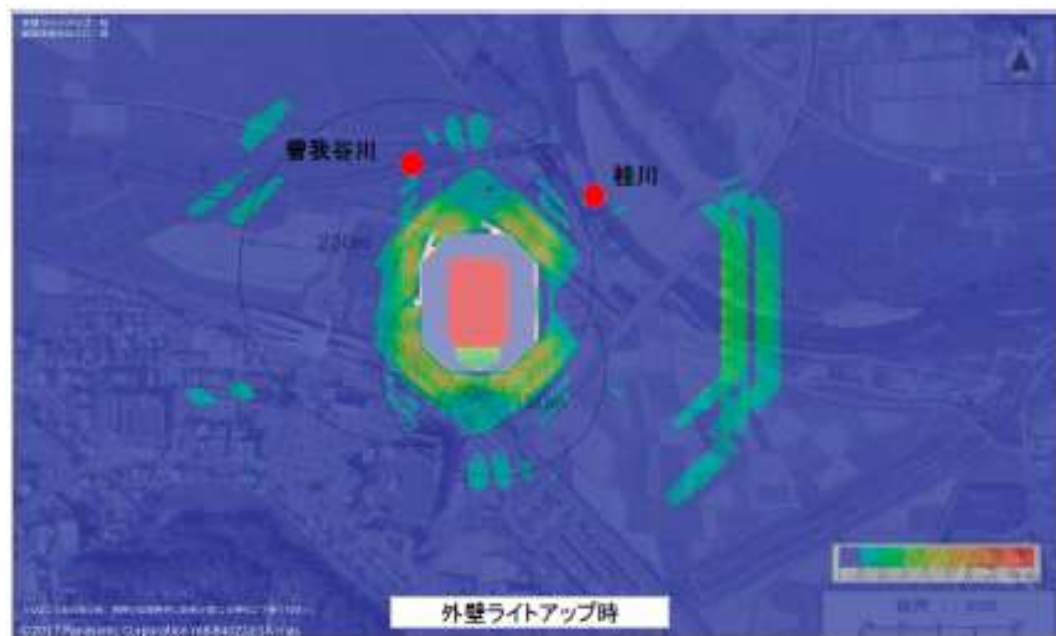
○試合中の照明による光予測結果

スタジアム内の照明を点灯したときの照度分布シミュレーション

- ・ スタジアムの南側～西側の住宅地で、4階の窓から漏れる光が分布
- ・ その照度は0.2ルクス※以下の値

※0.2ルクス以下

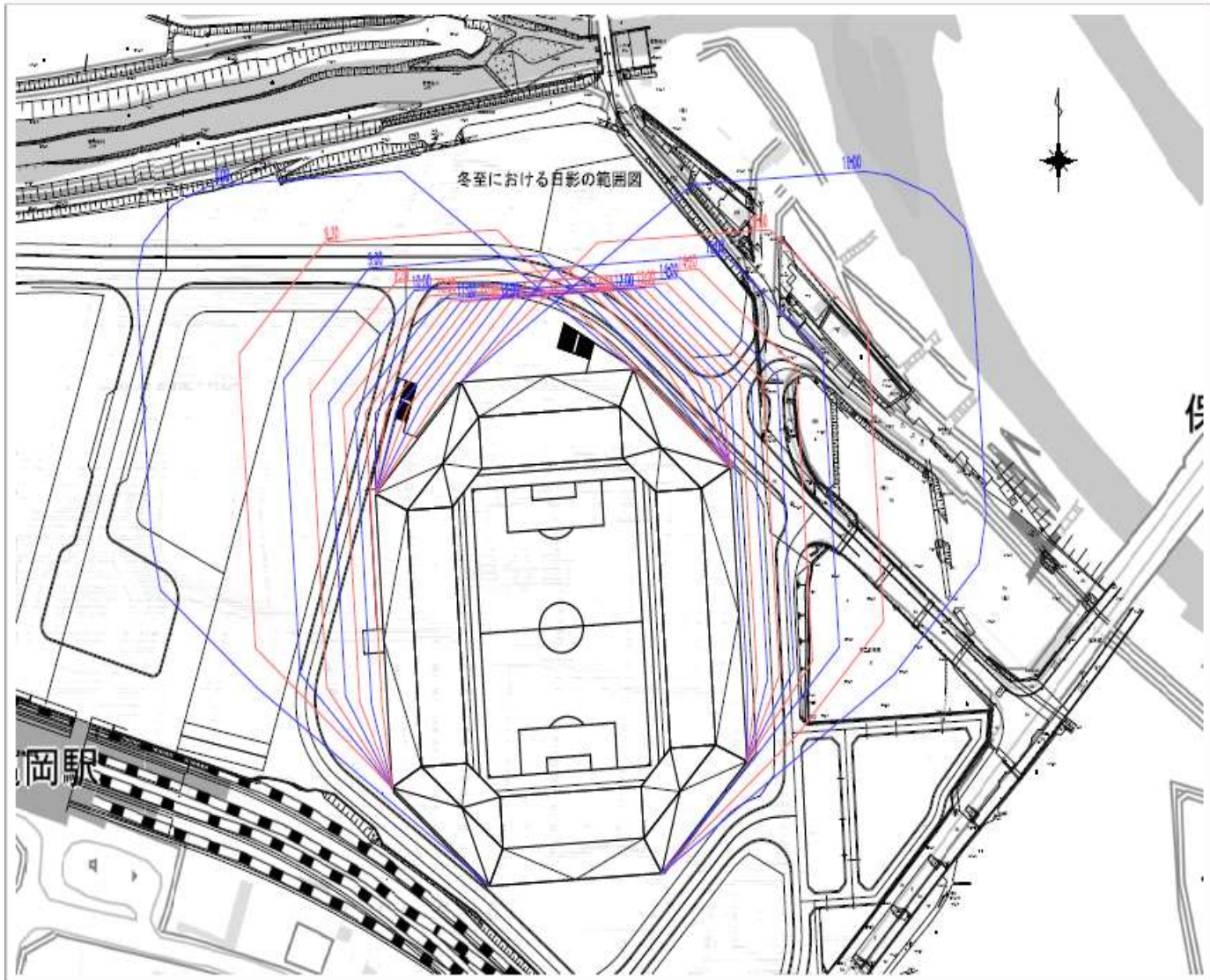
- ・ 満月の夜の明るさ程度
- ・ 防犯灯照度(3ルクス程度)の約7%



生活環境への影響⑥

○日照予測結果(日陰が一番長くなる冬至でシミュレーション)

- ・スタジアムによる日陰の影響はなし



○交通アクセスや駐車場対策

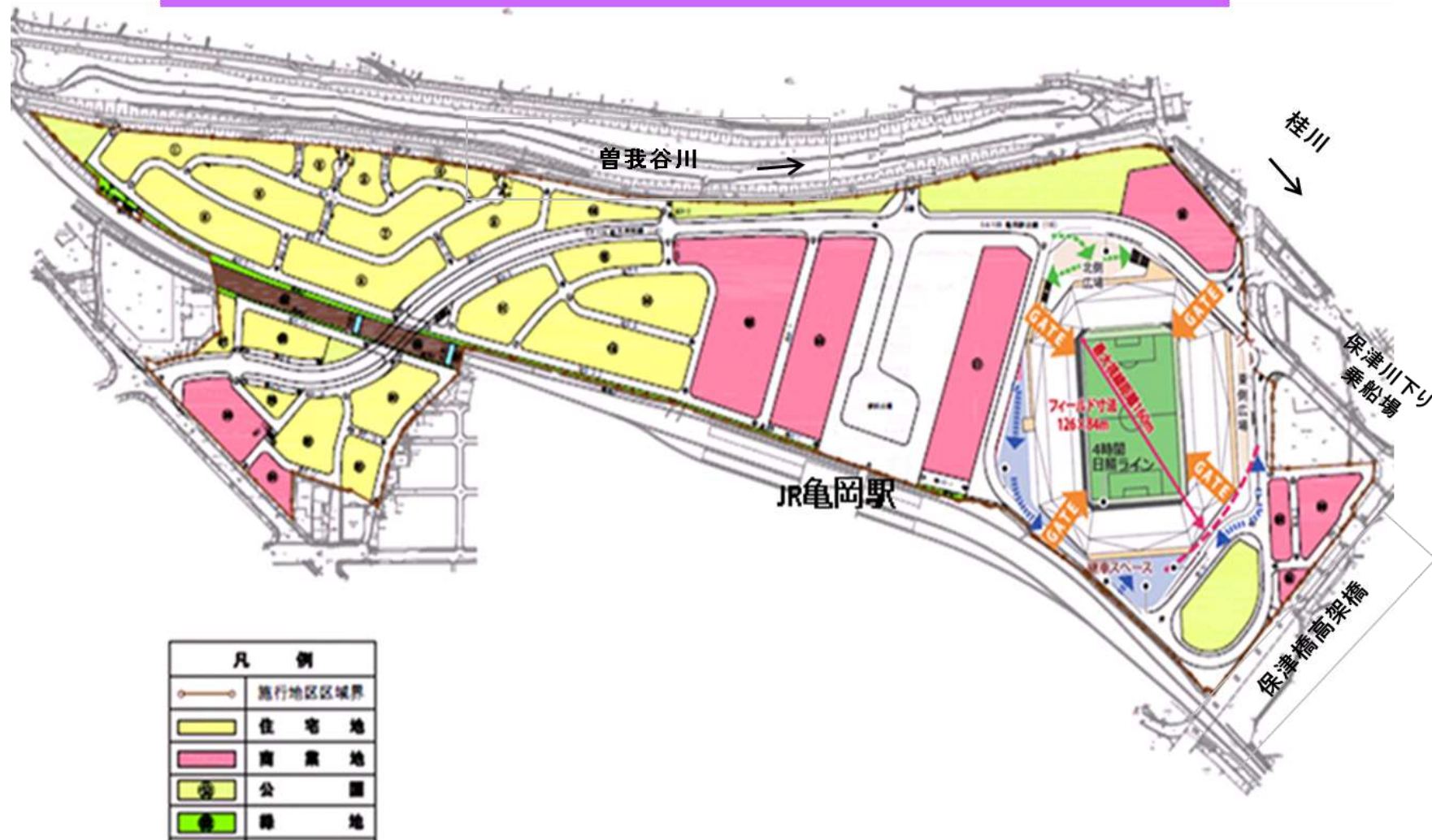
- 観客の来場について、公共交通機関（JR・バス）の利用を促すこと最優先
- 他府県のスタジアムでも観客用の駐車場を有しない、駐車場を有していてもＪリーグの試合や大規模イベントには使用させないところが少なくない。
- 駐車場を設置することで、かえって周辺道路が渋滞するなどの課題もある。
- その一方で、公共交通機関だけでは来場しにくい方がおられるのも事実なので、京都縦貫道亀岡ICに近い亀岡運動公園の駐車場（700台超）を活用して車で来場する観客をシャトルバスで輸送することなどについて、亀岡市と連携して適切な対策を検討・実施することとしている。

※ 現在ＪＲ亀岡駅周辺に民間の駐車場が6ヶ所あり、その収容台数は全部で約1,250台あるが、これらの駐車場は、常に満車になっているわけではないことから、亀岡駅周辺の民間駐車場の利用も考えられるが、この点については周辺道路の状況も踏まえ、観客の来場方法の実態などを調査し、中心市街地を通らずに誘導することなどを検討

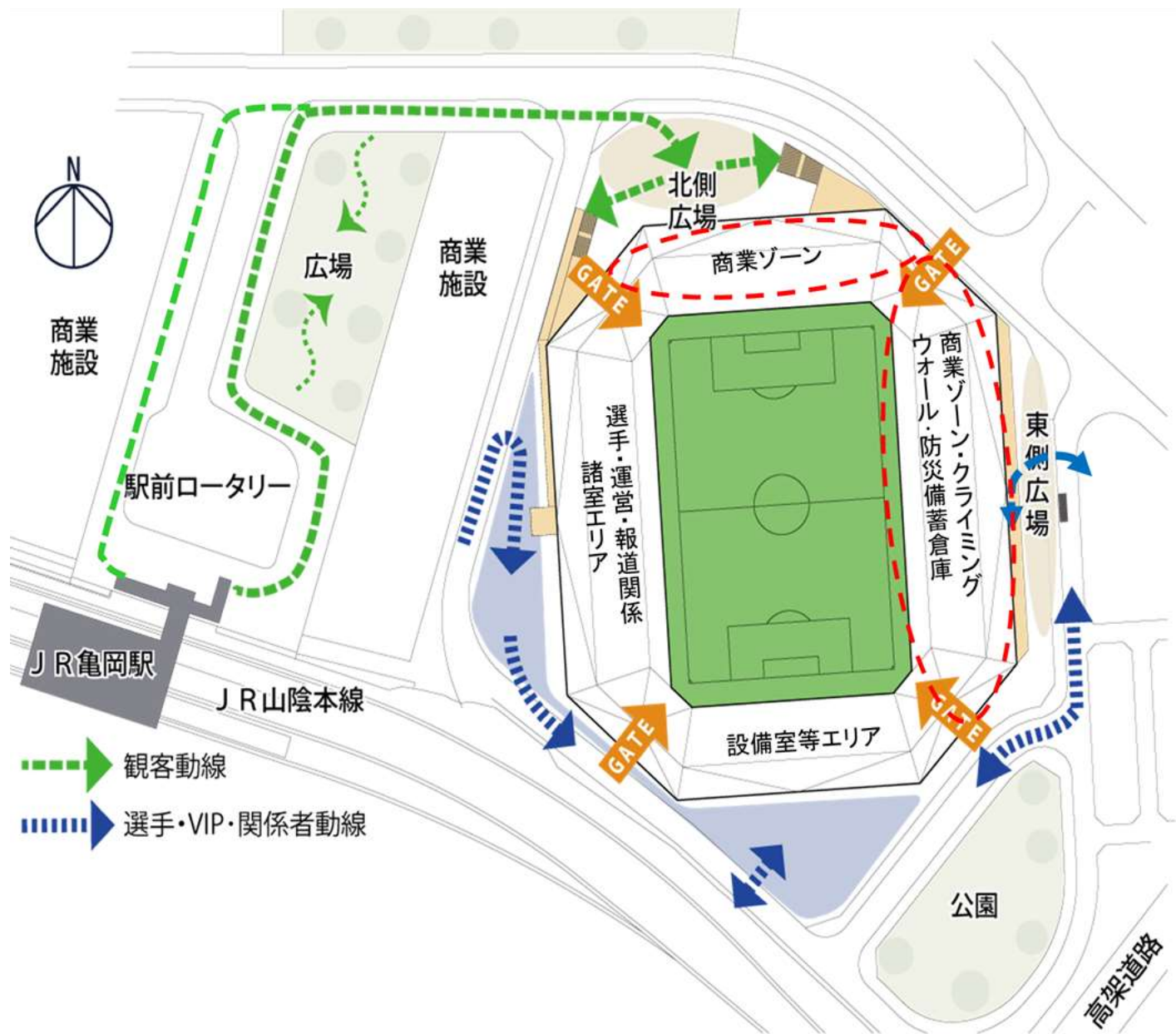
○JRの輸送能力等

- 土日の試合終了後の2時間（21～22時台）については、既存列車の増結、臨時列車の増発などを行えば、京都駅方面で約22,400人、園部方面で約7,800人の観客が輸送可能
- 駅への観客誘導は、ロータリー全体で約3.8万人の滞留が可能であり、安全に誘導が可能
- 更に輸送が円滑にできるよう、京都方面からのシャトルバス輸送も含め、亀岡市、JR等公共交通機関と調整を図り対応予定
- 試合日や試合開始時間に決まったルールはなく、Jリーグや京都サンガと調整が可能である。
JRの輸送能力が十分に確保出来るようになっていく。

位置図



観客・選手・VIP・関係者動線図



スタジアムの鳥瞰



嵯峨野線車窓からスタジアム



スタジアムの近景（北側広場から望む）



スタジアムの近景（南側公園から望む）

バックスタンド下のクライミングウォールと商業ゾーン



スタジアムの近景（北西ゲート前外部デッキ）

スタジアム内の施設配置



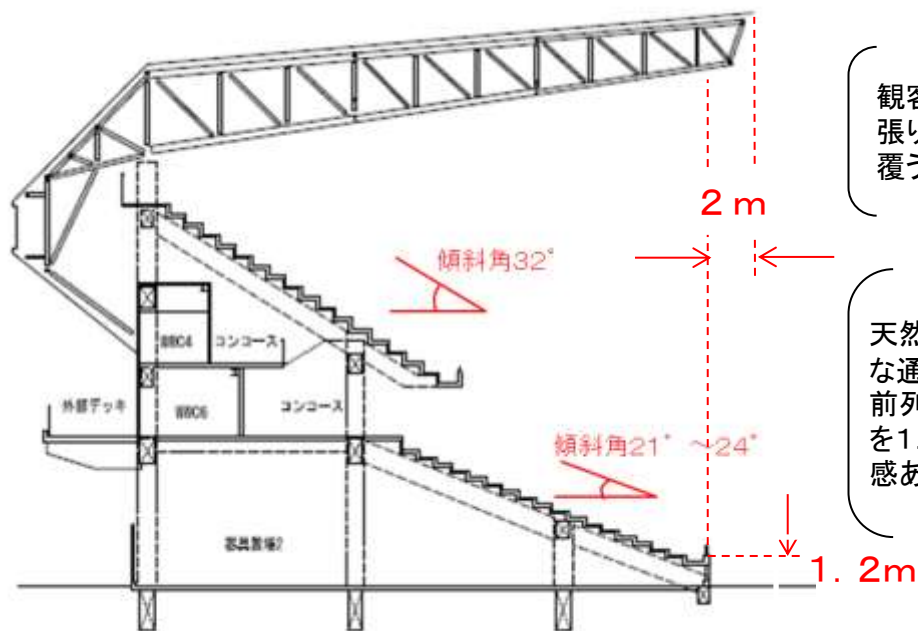
観客席とフィールドの距離(観戦環境)



スタジアム内の主な施設概要

屋根	観客席最前列より2m張り出した屋根で全席を覆う【全国初】
観戦環境	スタンド最前列からピッチまでの距離 ・メインスタンド 8.5m ・バックスタンド 7.5m ・南北サイドスタンド 10.5m ・スタンド最前列とピッチの高低差 1.2m
フィールド	126m(南北)×84m(東西) (サッカー・ラグビー国際試合開催可)
大型映像装置	2基
照明(LED)	フィールドの照度 1,500ルクス以上
天然芝	通風・日照・散水機能の充実、耐陰・耐寒性に優れた品種採用

バックスタンド側上層スタンドの観客席



観客席最前列より 2m
張り出した屋根で全席を
覆う【全国初】

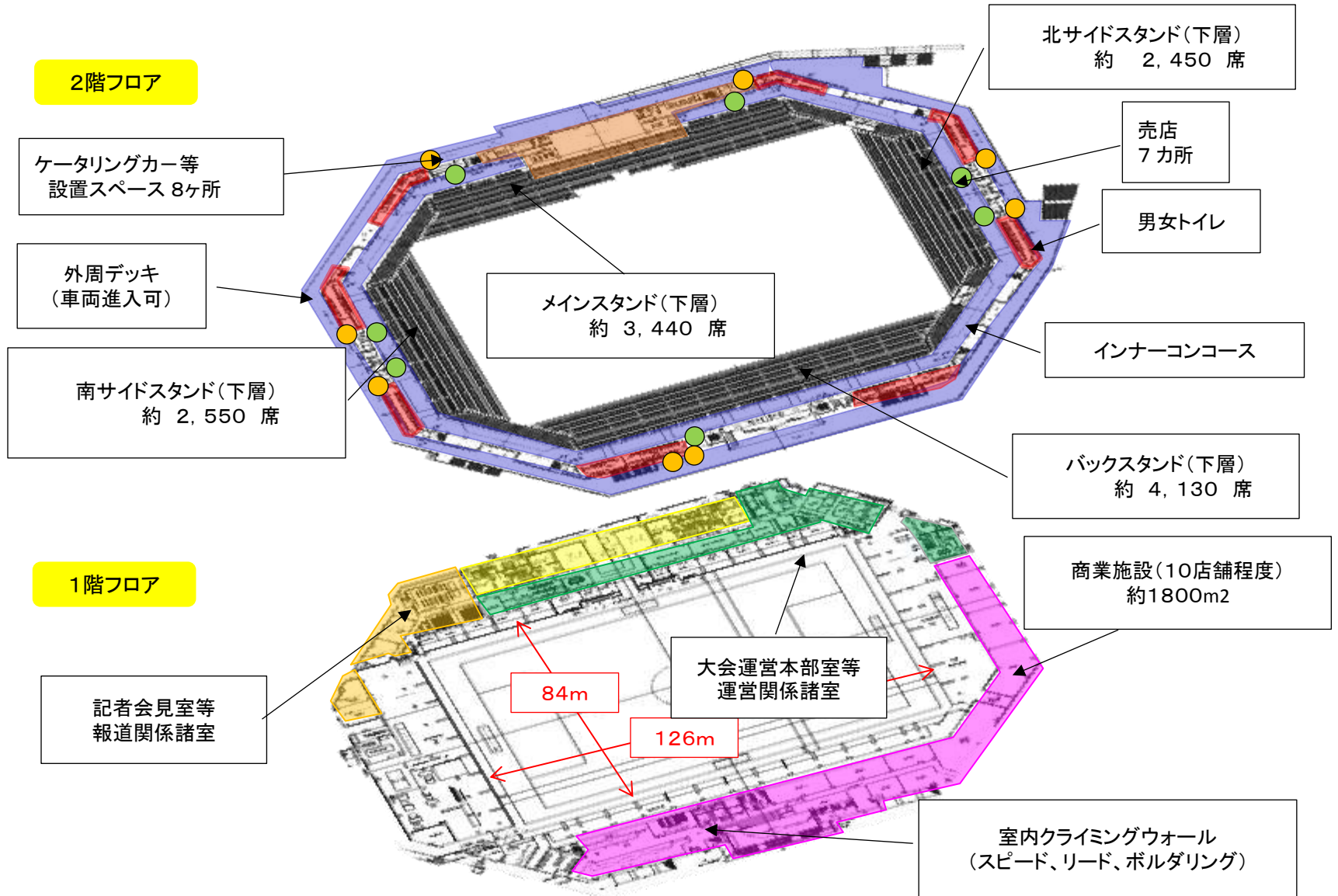
天然芝の育成等に重要
な通風口を設置。スタンド最
前列とピッチの高低差
を1.2mにおさえ、臨場
感ある観戦環境を実現

スタンドの傾斜角

インナーコンコース

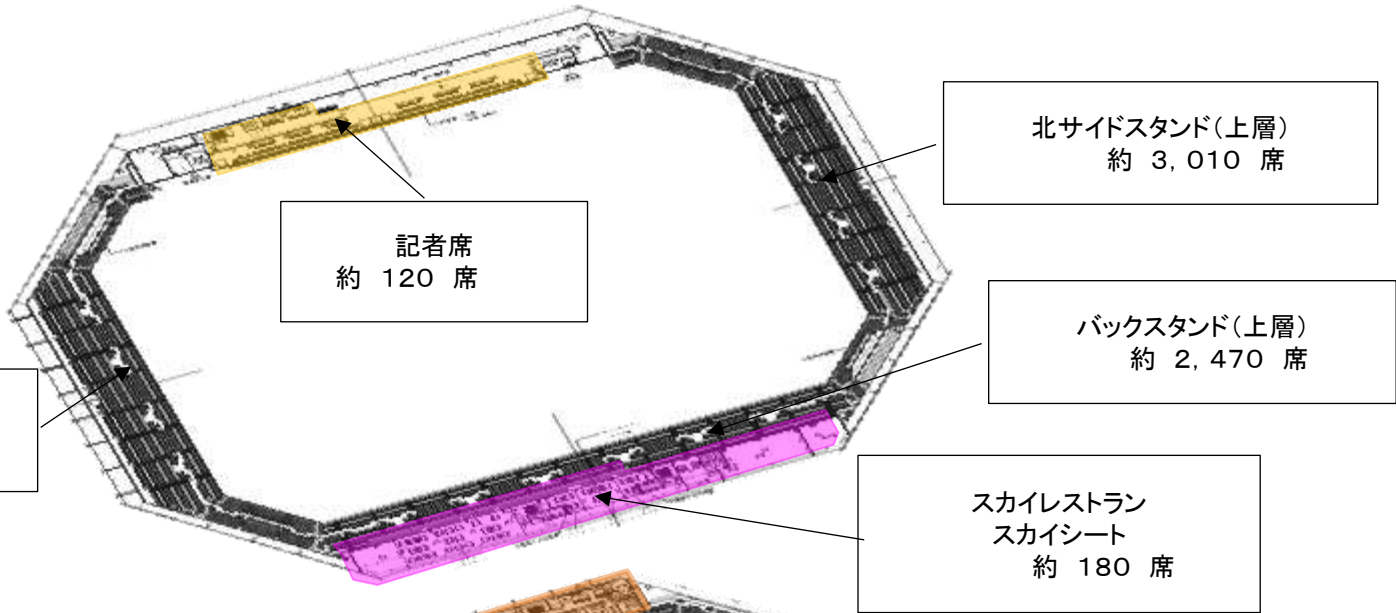


各階フロアの施設配置(1及び2階)

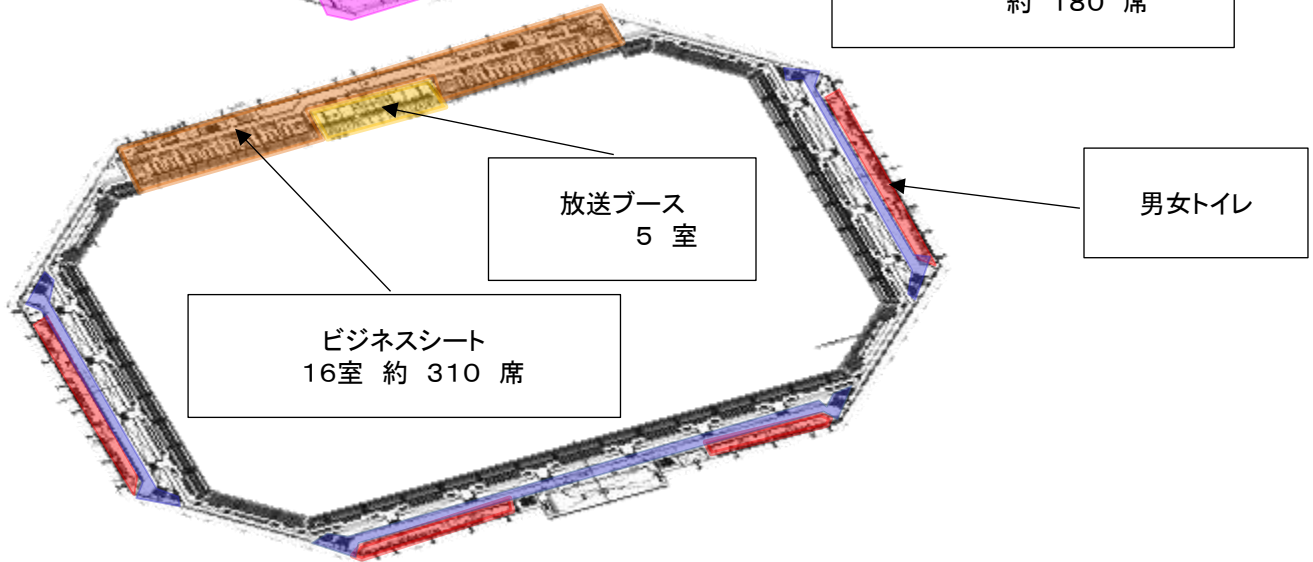


各階フロアの施設配置(3及び4階)

4階フロア



3階フロア



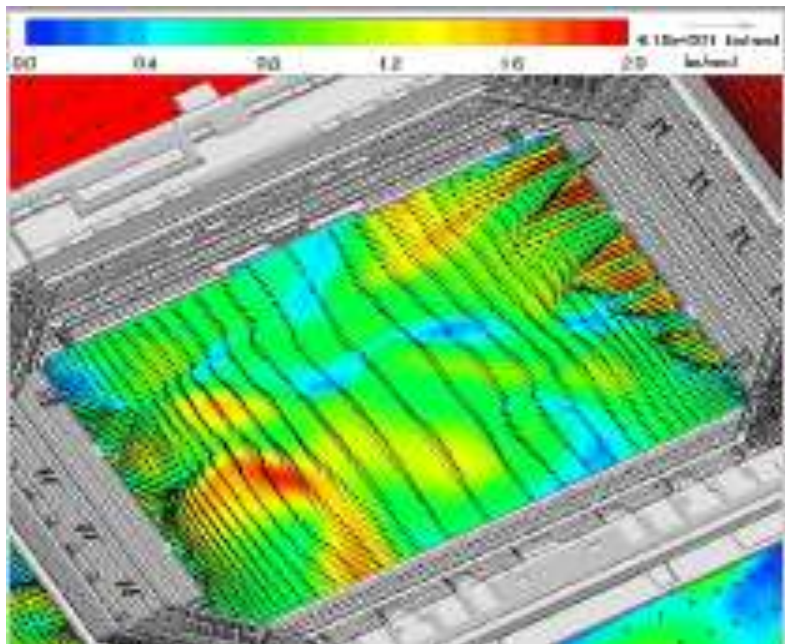
観客席の数、座席間隔

	席数	備考
メインスタンド	3,930	一般席、VIP、ビジネスシート、車椅子席
バックスタンド	6,780	一般席、車椅子席、スカイシート
北サイドスタンド	5,460	一般席
南サイドスタンド	5,440	〃
計	21,610	

一般席 47cm、VIP席 55cm、ビジネスシート・スカイシート 50～55cm

一般席	VIP・VVIP席	ビジネスシート・スカイシート
 <p>写真は吹田スタジアム</p>	 <p>写真は吹田スタジアム</p>	 <p>写真は吹田スタジアム</p>

良好な天然芝を実現する「光・風・水」の工夫(芝の長寿命化)



ピッチ気流解析で通風状態をチェック
(※水色部は風量が弱い箇所)



ハーフタイム中にも散水ができ、夏場に涼感をもたらす一斉自動散水システム

保津橋高架橋上から北東のスタジアムと牛松山を望む



このパースはイメージであり、今後変更することがあります。

スタジアムの景観その2

曾我谷川左岸(対岸)からスタジアムと北東の山並みを望む



このパースはイメージであり、今後変更することがあります。

イオン東側の府道亀岡停車場追分線道路上から
北側(牛松山)を望む



亀岡駅2階展望デッキ手前の連絡通路から
北側(牛松山)を望む



このパースはイメージであり、今後変更することがあります。

予 定

- ・府議会（H29.7.4）、亀岡市議会（H29.6.26）
用地の財産取得を可決

➤ 予定

- ◎ 年内 工事公告・入札、請負工事契約の議決
- ◎ 29年度内 工事着工
- ◎ 31年内完成予定
- ◎ 32年春オープン（こけら落とし）